

旧久保田家住宅

久保田庄七（年代不詳）は、交渉の厳しい商人で有名な滋賀県の近江出身の呉服商人であった。商人として、久保田はその故郷の評判に違わなかった。19 世紀後半には萩の呉服町に移り住み、城下町の富裕層に着物を売って財を成した。息子の庄次郎は、酒造業を家業に加え、あらたま酒店を創業し、その富はさらに大きくなっていった。

現在、久保田家の 2 階建ての町家とその庭園、蔵は、萩城下町の重要歴史遺産として保存されている。

旧御成道から住宅を見ると、2 階の特徴的な格子窓が見える。これは虫籠窓と呼ばれ、江戸時代（1603～1867）の特徴的な窓である。格子窓が特徴的で、虫籠窓と呼ばれている。家の中で屋根裏は異常に高く、畳の部屋は広々とした開放感がある。家の中は天井の高さが異常に高く、畳の部屋は広々としていて開放感がある。2 階は蔵となっており、30 人ほどの使用人が酒樽や味噌、醤油などに囲まれた固い木の床に寝泊まりしていた。屋根裏部屋の一角には、酒蔵の主人が寝泊まりする部屋が設けられていた。

1 階の部屋には、山口県出身の芸術家、大庭学僊（1820～1899）が 1858 年に描いた屏風が展示されている。春日神社、椿八幡宮、金谷天満宮、住吉神社の神輿山車が、久保田邸前の呉服町を練り歩く様子が描かれている。しかし、これらの山車が同時にお披露目されたことはないため、この屏風が描いた場面は想像で描かれた作品である。

居間の床の間の直立柱は、筍を思わせるように、滑らかに鉋がかけられている。これは、世代を超えた豊かさと繁栄をもたらすと考えられた。江戸時代に建てられた家によく見られる。

建物の裏にある白い漆喰の倉庫には、隠れた車輪の上で大きな石板を転がすと現れる、珍しい地下金庫がある。

住所：山口県萩市呉服町 1-31-5

電話番号：0838-25-3139（萩観光案内所）

営業時間：午前 9 時から午後 5 時（毎日）

入場料：¥100

アクセス：「萩白仏館前」バス停から徒歩 3 分（萩循環まあるバス西回り）

Google マップのリンクは[こちら](#)